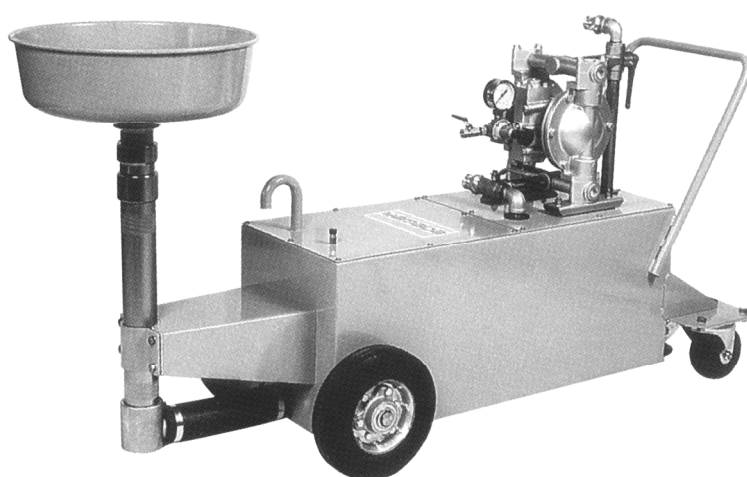


取扱説明書

DC-100 ドレンカート（廃油受）

DC-100 MODEL No.880576
DC-100（ポンプ無し） MODEL No.880896



警告

安全のため、本製品のご使用前には必ずこの取扱説明書をよく熟読し、記載されている重要警告事項をよく理解してください。
また、本取扱説明書をいつでも使用できるよう大切に保管してください。

YAMADA CORPORATION

はじめに

このたびは、弊社製品をご購入頂き、誠にありがとうございます。この取扱説明書には、ご購入頂いた製品を安全且つ快適にお使い頂くための方法が記載されております。使用前に、良くお読みになり、内容を理解したうえで使用してください。

なお、ご使用中にご不明の点、不具合などがありましたら、お買い上げの販売店、または、弊社各営業所までご連絡ください。

- ★ 取扱説明書、注意ラベル等を汚損、紛失した場合には、速やかにお買い上げの販売店からご購入いただき保管・貼付してください。

目次

1. 使用目的	1
2. 警告・注意事項	
2-1. 警告・注意の定義	2
3. 使用上の注意事項	2
4. 各部の名称	
4-1. 梱包内容	3
5. 使用前の準備	3
6. 使用方法	3
7. 廃油移し替え方法	4
8. 廃油の吸い込み方法	5
9. 保守・点検	
9-1. 故障の点検とその対策	5
9-2. 保守	6
9-3. 分解・組立	6
10. 部品分解図・パーツリスト	10
11. スペック	11
12. 不具合内容 FAX シート	12
13. 製品保証登録 FAX シート	13
14. 保証規定	14

1. 使用目的

本機は、廃油タンク容量が 100L の大型車用オイルドレンです。

排出用ダイアフラムポンプを付属しておりますので、タンク内の廃油の排出・圧送が簡単に行えます。

また、ピットなどに溜まった廃油の処理も付属のサクションパイプを利用し、吸い込むことができます。

本機は、ミッション、エンジン、デフオイルの廃油専用です。ブレーキオイルには使用しないでください。

2. 警告・注意事項

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、警告および注意事項を絵によって表示しています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき操作を行う方や周囲にいる方々に加えられる恐れのある人身事故や、周囲にある物品への損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解いただくようによくお読みください。

 **警告：** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。

 **注意：** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容を示すために、上記の表示とともに以下の絵表示を使用しています。

 この表示は、してはいけない行為（禁止事項）であることをあらわしています。表示の脇には具体的な禁止内容が示されています。

 この表示は、必ずしたがっていただく内容であることをあらわしています。表示の脇には具体的な指示内容が示されています。

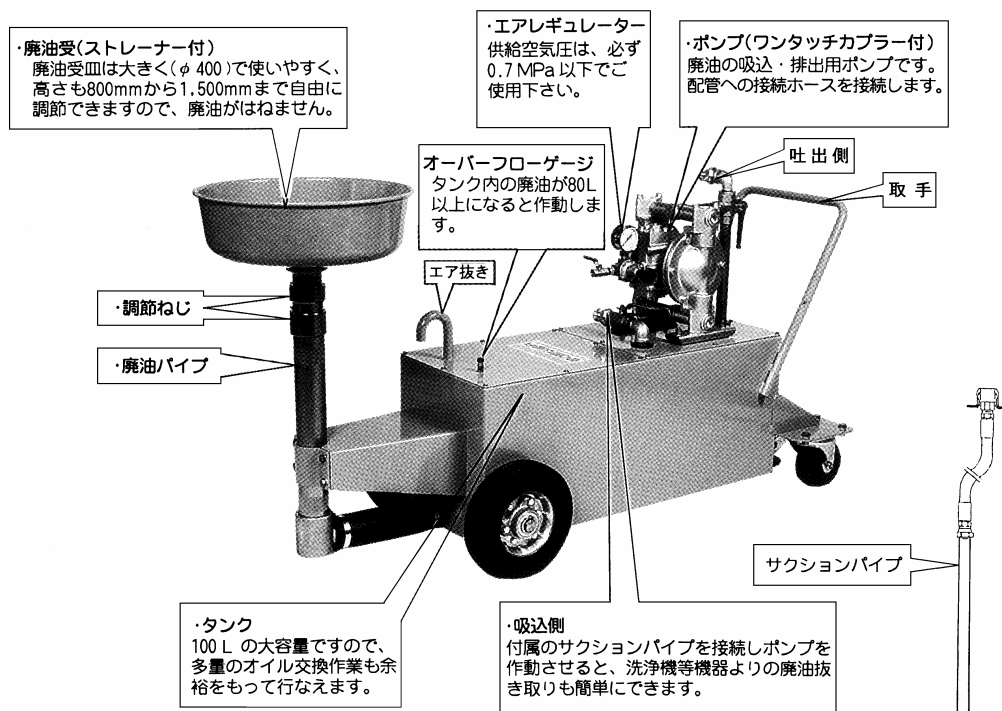
3. 使用上の注意事項

下記の警告・注意事項は大変重要ですので、必ず守ってください。

 警告	
	－ 本機で取扱う廃油は、地面などに直接排出しないでください。 廃油の処分は、適用される法規に従って処理してください。
	－ 本機は操作の性質上高温の廃油を取扱うことがあります。十分に注意し、ヤケドを負わない様にしてください。

 注意	
	－ 作業中及び作業終了後は、不用意に動かない様、必ずキャスターのストッパーを確実にロックしてください。 転倒などによりオイルが流出し、施設を汚染するなど二次災害については、使用者側の責任になります。
	－ ポンプへの供給エア圧力は、必ず 0.7MPa 未満でご使用ください。 0.7MPa 以上でご使用になりますと、故障の原因となるばかりでなく、破損等の事故になる場合があります。元圧が 0.7MPa 以上ある場合は、エアレギュレーターで調整してください。
	－ ドレン受けの高さの調整の際、指などを挟まれますと思わぬケガをします。 高さ調整を行う場合は、十分に注意してください。

4. 各部の名称



4-1. 梱包内容

本機は、木枠にて梱包してあります。

開梱し、機器の損傷及び付属品の有無を確認してください。

5. 使用前の準備

オイルを抜く前にタンク内の廃油残量をあらかじめチェックし、使用中オーバーフローしない様注意してください。

本機にはオーバーフローゲージが装備されています。タンク内の廃油量が 80L になるとゲージが上がり始め 100L で一番高くまで上がります。(蓋面より約 7cm 位まで上がります。)

6. 使用方法

⚠ 警告

- ⊘ 本機で取扱う廃油は、地面などに直接排出しないでください。
廃油の処分は、適用される法規に従って処理してください。

⚠ 注意

- ⊘ 本機は、ミッション、エンジン、デフオイルの廃油専用です。
ブレーキオイルは絶対に使用しないでください。
- ❗ 作業中及び作業終了後は、不用意に動かない様、必ずキャスターのストッパーを確実にロックしてください。(Fig.1)
- ❗ ドレン受けの高さの調整の際、指などを挟まれますと思わぬケガをします。
高さ調整を行う場合は、十分に注意してください。

Fig 1



- 1) リフトアップした車両のドレン穴の下に本機を正しくセットしてください。
- 2) デフオイルを抜く場合は、ドレンプラグが真下よりやや斜めにある場合が多いので、ドレン受けは少しずらして、プラグを外したときに正確にオイルを受けられる位置にセットするよう注意してください。
- 3) 廃油受けの高さを車両に合わせ、調整してください。
高さの調整は、廃油パイプを固定している調整ネジを緩め、廃油パイプを適正な位置まで伸ばしてから、再び調整ネジを締めて固定してください。

NOTE

廃油パイプは一段式です。最大 1,590mm の高さまで伸ばすことができます。

- 4) 廃油受けにはストレーナーが付いており、廃油の状況（異物、金属片など）のチェックにも利用できます。
ストレーナーの目詰まりによるオーバーフローに注意してください。
- 5) 作業中オーバーフローゲージが蓋面より上がり始めたら、廃油タンクが満杯になります。
直ちに作業を中止し、廃油の処理を行ってください。
- 6) 作業が終了したら調整ネジを緩め、廃油受けの高さを元の位置まで戻しておいてください。

7. 廃油移し替え方法

廃油タンクが満パイになりましたら、下記の要領でタンクの廃油を移し替えてください。

⚠ 注意

- ポンプへの供給エア圧力は、必ず **0.7MPa** 以下で使用してください。
元圧が **0.7MPa** を超える場合は、エアレギュレーターにて **0.7MPa** 以下に調整してご使用ください。

- 1) ワンタッチカップラーの付いたホース等でポンプの吐出口と配管とを接続してください。
- 2) 吸込側のバルブを「A」の位置に、吐出側のバルブを「A'」の位置に合わせてください。(Fig.2, Fig.3)
- 3) エアバルブを「閉」の位置にしてから、コンプレッサーからのエアホースをエアレギュレーターに接続してください。(Fig.4)
- 4) エアレギュレーターのツマミを左（反時計方向）に廻し、圧力計の指針を“0”に戻してから、配管のバルブを開き、エアバルブを開いてください。(Fig.4)
- 5) エアレギュレーターのツマミを徐々に右（時計方向）に廻してください。
供給エア圧が **0.15~0.2MPa** でポンプが作動し、タンク内の廃油を配管に移送します。

NOTE

ポンプを最初に使用する時は、エアを供給する前にリセットボタンを押してください。

Fig 2

吸込側

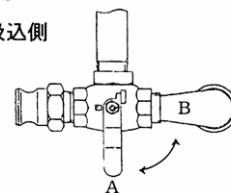


Fig 3

吐出側

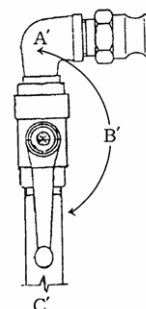
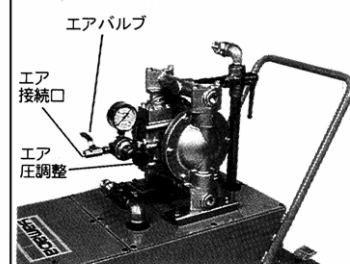


Fig 4



- 6) タンク内の廃油が少なくなると、ポンプは空打ちします。
エアバルブを閉じポンプを停止させ、配管のバルブを閉じてください。
- 7) 廃油用ドラムが満タン、またはポンプを途中で停止させたい場合は、エアバルブを「閉」にしますとポンプは止まります。
- 8) 吐出側のバルブを「B'」の位置に合わせ、ホース内の圧力を抜いてください。(Fig.2 参照)
- 9) 吐出側のバルブを「C'」の位置にし、廃油排出用ホースとエアホースを外してください。(Fig.3 参照)

8. 廃油の吸い込み方法

ピットなどに溜まった廃油も、付属のサクシオンチューブを利用し吸い取ることができます。

- 1) 付属のサクシオンパイプを吸込口に接続してください。
- 2) 吸込側のバルブを「B」の位置に、吐出側のバルブを「C」の位置に合わせてください。
(Fig.2, Fig.3)
- 3) エアバルブを「閉」にしてから、コンプレッサーからのエアホースをエアレギュレーターに接続してください。
- 4) エアレギュレーターのツマミを左（反時計方向）に廻し、圧力計の指針を“0”に戻してから、エアバルブを開いてください。(Fig.4)
- 5) エアレギュレーターのツマミを徐々に右（時計方向）に廻してください。
供給エア圧が 0.15~0.2MPa でポンプが作動し、サクシオンパイプの操作をすることにより廃油を吸い込むことができます。
- 6) 作業が終了したらエアバルブを閉じて、吸込側のバルブを「A」の位置に合わせてください。ポンプは停止します。
- 7) サクシオンパイプとエアホースを外して作業は完了です。

9. 保守・点検

9-1. 故障の点検とその対策

状況	点検方法	対策
ポンプが作動しない	供給エアは正常か —————→ ポンプにエアが来ていなければ コンプレッサーは正常か —————→ エアバルブは開いているか —————→ エアレギュレーター、エアフィルターは つまっていないか —————→ ポンプにエアが来ている （リセットボタンを押しても作動しない） ダイアフラム室を分解、異物がないか —————→ 切換部を分解、スプール、 ロッドがかじっていないか —————→	0.2~0.7MPa の間で エアの調整 点検・修理 点検 点検・交換 清掃 サービスを依頼
ポンプは作動するが 廃油が出ない	ダイアフラム室を分解（9.3.分解・組立参照） ダイアフラムは破損していないか バルブが破損、摩耗していないか —————→ バルブがつまっていないか —————→	サービスを依頼 清掃
廃油は出るが流量が 少ない	供給エア圧を上げて変わらない コンプレッサーは正常か —————→ エアレギュレーターは正常か —————→ サイレンサーはつまっていないか —————→ 吸込口、吐出口がつまっていないか —————→ エア切換機構が凍結していないか —————→ ダイアフラム室を分解（9.3.分解・組立参照） ダイアフラムが片側破損していないか —————→ バルブがつまっていないか —————→ スラリーが滞留し、ポンプディスブ レースメントが減少していないか —————→	点検・修理 点検・修理 交換 清掃 解凍・吐出量を減らす 交換 清掃 点検・清掃
排気口に材料が出てくる	ダイアフラム室を分解（9.3.分解・組立参照） 片側のダイアフラムが破損していないか —————→	交換
ポンプ作動中大量のエア が漏れる エア排気口から廃油がた れる	切換部を分解（9.3.分解・組立参照） ゴミがつまっていないか —————→ スプールがかじっていないか —————→	清掃 点検・交換

9-2. 保守

- ・ポンプのルブリケーションのため、エア供給口から定期的に少量の潤滑油を注油してください。
潤滑油はタービン油 #90 相当のオイルを使用してください。
- ・ストレーナーが目詰まりを起こしたまま使用しますと、流れが悪くなり、廃油受けからオーバーフローしてしまいます。時々、取外して清掃してください。
- ・本機は、廃油等によって汚れやすいので、常に清掃に心がけてください。
- ・付属のダイヤフラムポンプに使用されているダイヤフラム、ボール、バルブシートは消耗品です。
使用状況により交換時期は異なりますので、定期的に点検し交換を行ってください。

9-3. 分解・組立

- ※ 分解に先立ち、供給エアを切り離し、吸込側・吐出側の配管を取外してください。
- ※ ポンプ内に廃油の残риがある場合は、できるだけ排出しておいてください。
- ※ 組み立て時の間違いを防ぐため、アウトマニホールド、インマニホールドとアウトチャンバー、また、アウトチャンバーとエアチャンバーに、各々、合マークを付けておくのと組立時に便利です。

⚠ 注意



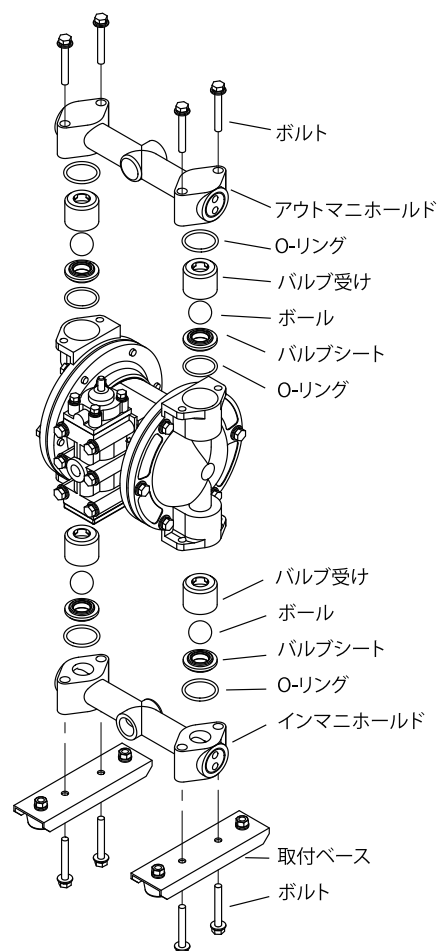
－ ガソリンは高揮発性の燃料です。洗浄などに絶対に使用しないでください。
引火・爆発のおそれがあります。



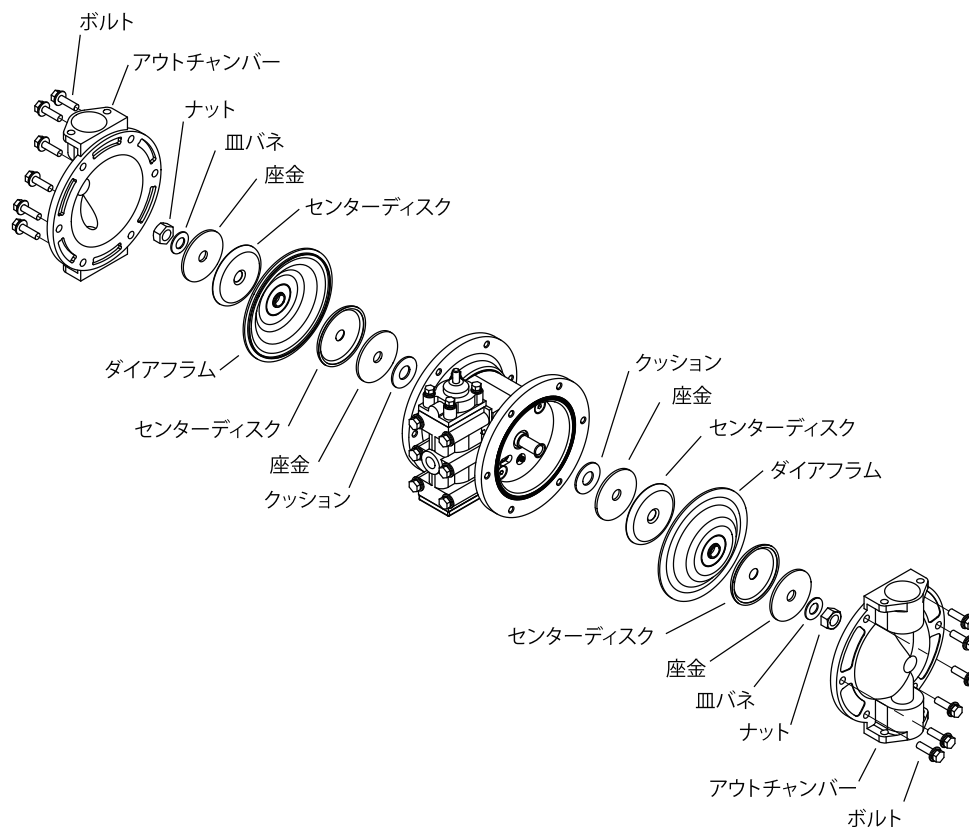
－ メンテナンス等で部品を外す際の人身事故防止のために、修理を開始する前には、必ずポンプ
へのエアの供給を停止してください。

＜ボール、バルブシートの分解・点検＞

- 1) アウトマニホールドを取外してください。
 - ・アウトマニホールドは、マニホールド上部のボルト（4 本）を緩めて取外せば本体と分離します。
- 2) アウト側（上部）のボール、バルブシートを取出してください。
 - ・ボール、バルブシートはマニホールドを取外したあとの本体（アウトチャンバー上部）から右図の順で取出せます。
- 3) インマニホールドを取外してください。
 - ・インマニホールドは、本体下側、取付ベースの下ボルト（4 本）を緩めて取外せば本体と分離します。
- 4) イン側のボール、バルブシートを取出してください。
 - ・イン側の分解に際してはポンプを逆さまに置くと作業が楽に行えます。
 - ・ボール、バルブシートは本体（アウトチャンバー下側）から右図の順で取り出せます。
- 5) ボール、バルブシート、O リングを点検、摩耗・キズなどの欠損、膨潤がある場合、または指定交換時期の場合には新品と交換してください。
- 6) ボール、バルブシート等の点検が終了したら、続いてダイヤフラムの点検を行ってください。



<ダイアフラムの分解・点検>

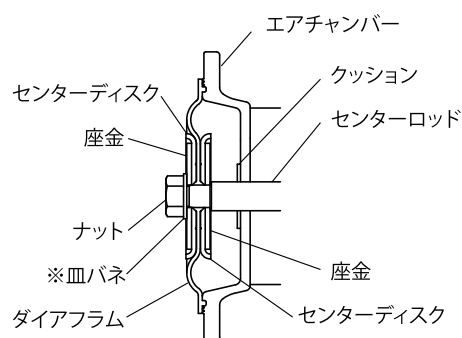


- 1) 左右のアウトチャンバーを取出してください。
 - ・アウトチャンバーは、アウトチャンバー周囲のボルト（6本）を緩めて取出せば分解できます。
- 2) 左右のダイアフラムを取出してください。
 - ・ダイアフラムは、ダイアフラム中央のナットを緩めて取外しますと、上図の順で分解できます。
 - ・ナットを緩める時は、左右のナットにスパナをかけて緩めてください。もし、一方のナットを外した後、もう一方のナットが固くセンターロッドがまわってしまう場合には、傷をつけぬように、アルミ板等で保護しバイスで固定、他方のナットを取外してください。
 - もし、現場作業等でバイス台が身近にない場合は、先に外したほうのナットと、別に用意した **M14** ナットでダブルナットにして固定し、他方を緩めてください。
 - ・ダイアフラムの分解の際、センターロッドにはパイプレンチなどをかけないでください。
- 3) ダイアフラムを点検、キズなどの欠損、膨潤がある場合、または指定交換時期の場合には新品と交換してください。

＜ダイアフラムの組み付け＞

- 1) 新しいダイアフラムの組み付けをセンターロッドの出ている側からはじめてください。

- ・クッションがセットされていることを確認してください。
- ・ Fig.7 を参照の上、組み付けの順序、部品の方向に注意し各部品をセンターロッドに組み付け、皿パネを入れてナットで固定してください。
- ・ダイアフラムは「OUT SIDE」の刻印のある側を外側にして組み付けてください。



- 2) もう一方のダイアフラムを組み付けてください。

- ・一方のダイアフラムを組み付けたら、センターロッドを反対側に押しだし、1)と同様の方法でもう一方のダイアフラムを組み付けてください。

- 3) 左右のナットを締め付けてください。

- ・左右のダイアフラムを正しく組み付けたら、左右のナットにスパナをかけ、強く締め込んでください。
※皿パネは凸側を外、ナット側にして組み付けてください。

締付トルク：40 N・m

- 4) アウトチャンバーの組み付けをダイアフラムの押し出されている側からはじめてください。

- ・ダイアフラムの周囲が、エアチャンバーとアウトチャンバーの間にきちんとセットされる様に注意してください。

- 5) アウトチャンバーを仮止めしてください。

- ・アウトチャンバーの周囲のボルト（6本）を元通りに取付け、軽く締め付けてください。

- 6) もう一方の側のアウトチャンバーを組み付けてください。

- ・一方のアウトチャンバーを組み付けたら、内側のセンターディスクにレンチ等をかけて、センターロッドを反対側に引き出し、1)と同様の方法でもう一方のアウトチャンバーを組み付けてください。

- 7) 両側のアウトチャンバーを取付けたら、マニホールドとの接続部分の平面度を調整してください。

- ・平らな面に本体をのせ、マニホールドとの取付面がびったりと安定する様に調整します。
この部分の平面が出ていないとマニホールドの取付が行えません。

- 8) 左右のアウトチャンバーのボルト（各6本）を確実に締め付けてください。

- ・ボルトの締め付けは、対角線上のボルトを交互に平均した力で全てのボルトを確実に締め付けてください。
締付トルク：10 N・m

＜ボール、バルブシートの組み付け＞

- 1) イン側のボール、バルブシート等を組み込んでください。
 - ・イン側の組み付けは、ポンプを逆さまに置くと作業が楽に行えます。
 - ・ **Fig.8** を参照の上、組み付け順序、シートの方に注意し、各部品を本体（アウトチャンバー下側）に組み込んでください。
- 2) インマニホールドを組み付けてください。
 - ・ ボール等を組み込んだ本体にインマニホールド、取付ベースの順でセット、ボルト（4本）で確実に固定してください。
締付トルク：10 N・m
- 3) アウト側のボール、バルブシート等を組み込んでください。
 - ・ **Fig.9** を参照の上、組み付け順序、シートの方に注意し、各部品を本体（アウトチャンバー上側）に組み込んでください。
- 4) アウトマニホールドを組み付けてください。
 - ・ ボール等を組み込んだ本体にアウトマニホールドをセット、ボルト（4本）で確実に固定してください。
締付トルク：10 N・m
- 5) 以上でボール、ダイヤフラムの交換は終了ですが、最後に各部の締め付けを点検してください。

Fig 8
(イン側)

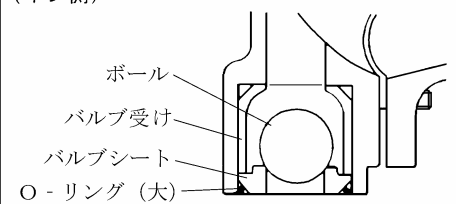
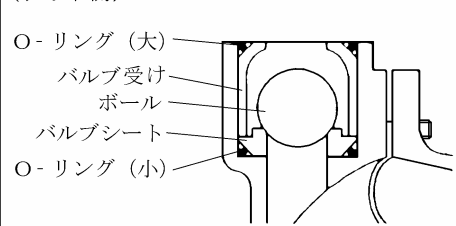


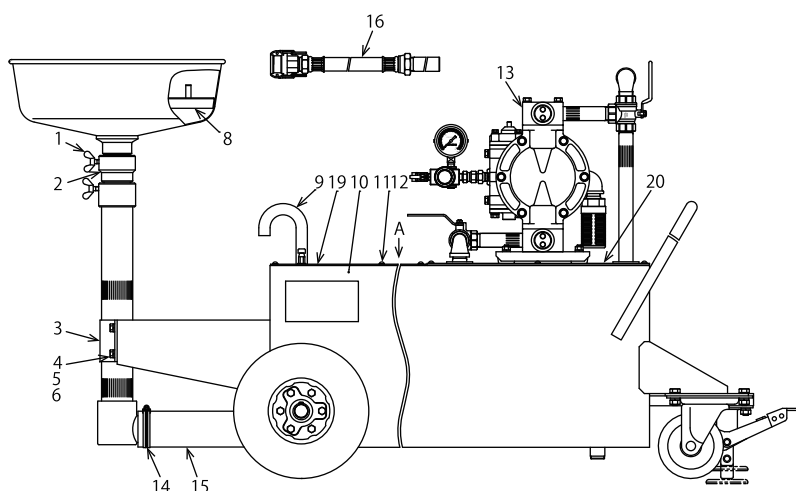
Fig 9
(アウト側)



10. 部品分解図・パーツリスト

880576 DC-100

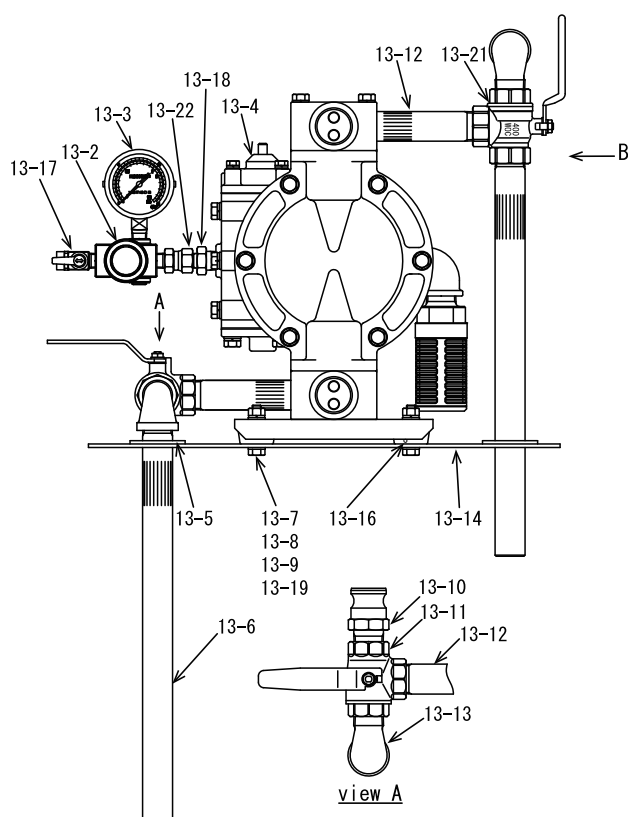
880896 DC-100 (ポンプ無し)



No.	部品番号	部 品 名 称	員数
1	610639	蝶ボルト	2
2	802582	油受け組立	1
3	710834	フランジ	1
4	611149	ボルト	4
5	631013	平座金	8
6	631420	バネ座金	4
8	831282	アミ組立	1
9	802287	フタ組立	1
10	802288	タンク組立	1
11	602284	ナベ小ネジ	16
12	631011	平座金	16
13	851701	ダイヤフラムポンプ組立	1
14	683273	ホースバンド	2
15	686583	耐油ホース	1
16	802297	サクシオンホース組立	1
19	771929	パッキン	2
20	710184	フタ (Ⅱ)	1

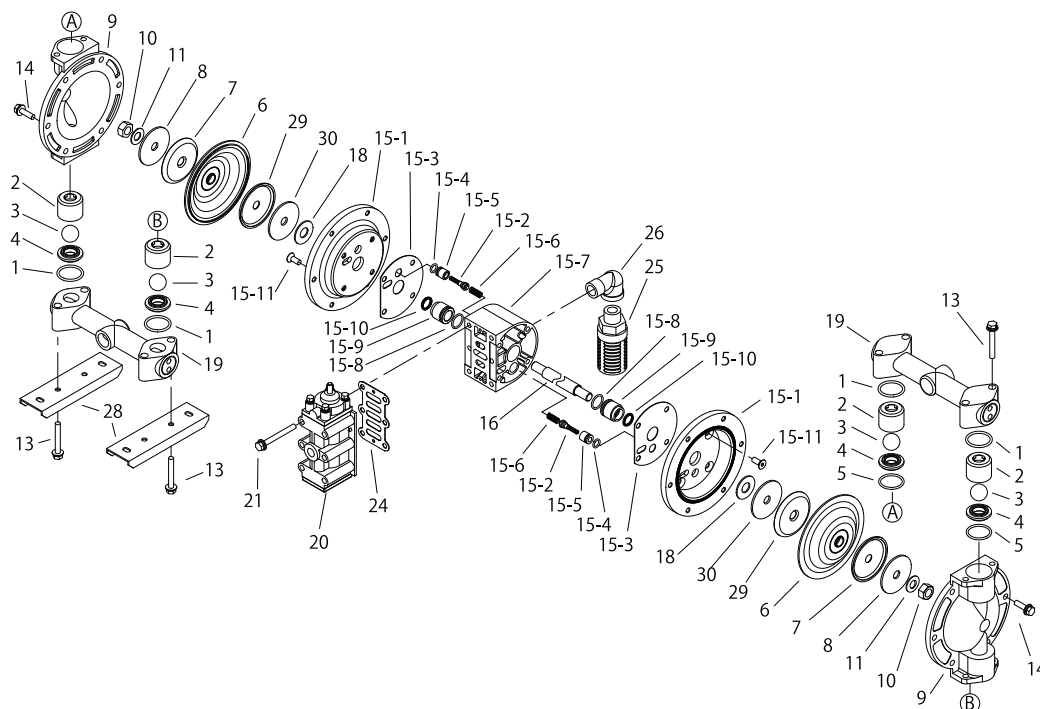
※ 710184(フタ (Ⅱ))は880896のみに組付け

851701 ダイアフラムポンプ組立



No.	部品番号	部 品 名 称	員数
13-2	680454	レギュレータ	1
13-3	680100	圧力計	1
13-4	851696	ダイヤフラムポンプ	1
13-5	771246	パッキン	2
13-6	709940	パイプ	2
13-7	611155	ボルト	4
13-8	631013	平座金	8
13-9	627012	ナット	4
13-10	686064	カムタイトF 3/4	2
13-11	682371	三方バルブ	1
13-12	710183	ロングニップル	2
13-13	634034	ストリートエルボ	2
13-14	710184	フタ (Ⅱ)	1
13-16	770551	ゴム足	4
13-17	682771	バルブ	1
13-18	681859	ニップル	1
13-19	631420	バネ座金	4
13-21	684369	三方バルブ	1
13-22	680080	ユニオンアダプター	1

851696 NDP-20BAN (DC-100 用) 部品分解図



No.	部品番号	部 品 名 称	員数
1	640036	O リング (NBR)	4
2	711700	バルブ受け	4
3	770720	ボール (NBR)	4
4	590086	バルブシート	4
5	640132	O リング (NBR)	2
6	772958	ダイヤフラム (NBR)	2
7	709153	センターディスク	2
8	709152	座金	2
9	711686	アウトチャンバー	2
10	682263	ナット	2
11	682730	皿パネ	2
13	686359	ボルト	8
14	686355	ボルト	12
15-1	715937	エアチャンバー	2
15-2	802360	パイロットバルブ組立	2
15-3	771057	ガasket	2
15-4	640009	O リング (NBR)	2

No.	部品番号	部 品 名 称	員数
15-5	771945	バルブシート	2
15-6	708666	スプリング	2
15-7	709154	ボディ	1
15-8	685276	O リング	2
15-9	772703	スロートベアリング	2
15-10	685414	パッキン	2
15-11	682486	皿ボルト	8
16	709163	センターロッド	1
18	771054	クッション	2
19	831243	マニホールド組立	2
20	802361	バルブボディ組立	1
21	682265	ボルト	6
24	771056	ガasket	1
25	804697	サイレンサー組立	1
26	634034	ストリートエルボ	1
28	709157	ベース	2
29	716225	センターディスク	2
30	716226	座金	2

11. スペック

■仕様

型式	DC-100
製品番号	880576
油槽容量	約100L
常用エア圧力	0.2 ~ 0.7 MPa
環境温度範囲	0 ~ 70 °C
流体温度範囲	0 ~ 70 °C
最大吐出量 *1	54 mL / min
最大エア消費量 *1	600 L / min (ANR)
全高	800 mm (最大1590 mm)
全巾	500 mm
奥行	1560 mm
質量	89.3 kg
付属品	851696 NDP-20BAN ダイアフラムポンプ 802297 サクションホース組立

*1 条件：エア圧 0.7MPa、オイル シェル・ヒリックス 10W-30、油温20℃

12. 不具合内容 FAX シート

不具合・故障の原因を追求するために、及び修理サービスの充実を図るために必要となりますのでお手数ですが下記の FAX シートに必要事項を記入して、弊社営業所宛てに送信してください。

不具合内容 FAX シート	
フリガナ 貴社名 _____	フリガナ ご担当者名 _____
フリガナ ご住所 _____ _____	ご所属 _____ ご連絡先 Tel. () _____ - _____ Fax. () _____ - _____
製品名	型式
使用期間 20 年 月 ～ 年 月	SERIAL No. (LOT No.)
運転頻度 ☐ 連続 ☐ 断続 hr / 日・週・月	購入年月日 購入販売店
機器の状態（不具合の内容）	

13. 製品保証登録 FAX シート

- ・お手数ですが、下記の FAX シートをコピーして必要事項をご記入の上、弊社宛てにご送信ください。
(フリガナ指定の箇所は、必ずご記入ください。)

製品保証登録 FAX シート		
フリガナ	フリガナ	
貴社名 _____	ご担当者名 _____	
フリガナ		
ご住所 _____	ご所属 _____	
_____	ご連絡先 Tel. () _____ - _____ Fax. () _____ - _____	
■ 貴社の業種を下記より選んで○で囲んでください。 1.ガソリンスタンド 2.自動車整備業 3.自動車部品製造 4.車両・造船業 5.製鉄業 6.機械加工業 7.機械製造業 8.電気機械器具製造 9.半導体製造業 10.化学・プラント 11.建築・土木 12.塗料・インキ製造業 13.薬品・樹脂 14.食品製造業 15.塗装業 16.鉄道・バス・運輸業 17.窯業・陶器製造 18.印刷産業 19.鋳造業 20.石油産業 21.電気部品製造 22.軽金属・非鉄 23.織物・家具 24.バルブ 25.その他（詳しくご記入ください。 _____ ）		
■ 本機をお知りになったきっかけを○で囲んでください。 新聞 1.日刊工業新聞 2.日本工業新聞 3.日経産業新聞 4.日刊自動車新聞 5.燃料油脂新聞 6.その他の新聞 雑誌 7.IEN 8.化学装置 9.IPG 10.その他の雑誌 11.販売員に薦められて 12.展示会 13.カタログで		
ご購入年月日	_____ 年 _____ 月 _____ 日	ご購入目的 _____
ご購入販売店		ご使用条件 1.取扱材料（液剤） _____ 2.流量（吐出量） _____ 3.吐出圧力 _____
製品名（型式）		
製品番号		
SERIAL No.		
LOT No.		

宛先
 株式会社 ヤマダコーポレーション
 営業部 製品保証登録係
 TEL. 03-3777-4101
 FAX. 03-3777-3328

お 願 い

この度は、弊社製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。
弊社では、お納めした製品のアフターサービス徹底のため「**ご愛用者登録**」による保証制度を採用しております。
お手数をおかけいたしますが、添付の「**製品保証登録 FAX シート**」に必要事項をご記入の上、弊社宛にご送信ください。弊社にて受信後、下記記載の保証を履行させていただきます。
尚、ご送信がない場合、および記入事項に漏れ等がある場合には、保証期間中でも保証の対象となりませんので必ずご送信ください。
また、本制度は日本国内においてのみ有効です。

14. 保証規定

1. 保証期間：製品を納入申し上げた日より起算して 12 ヶ月間といたします。
2. 保証内容：保証期間中に、本機を構成する純正部品の材料、もしくは製造上の欠陥が表われ、弊社がこれを認めた場合、修復費用は全額負担いたします。
3. 適用除外：保証期間中であっても、下記の場合には適用いたしません。
 - (1) 純正部品以外の部品を使用された場合に発生した故障。
 - (2) 使用・取扱上の過失による故障、保管・保安上の手入れ不充分が原因による故障。
 - (3) 製品の構成部品を腐食・膨潤、または溶解する様な液剤を使用して生じた故障。
 - (4) 弊社、又は弊社の販売店・指定サービス店以外の手によって分解修理がなされた場合。
 - (5) 製品に弊社以外の手によって改造・変更が加えられ、これが原因で発生した故障。
 - (6) パッキン、O・リング、ボール、バルブシートなどの消耗品の磨耗。
 - (7) お買上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷。
 - (8) 火災、地震、水害、及びその他天災、地変などの不可抗力による故障及び損傷。
 - (9) 異物の混入したオイルを使用して発生した故障。
 - (10) 過度に磨耗性を有する材料や、本機に不適當な油脂を使用された場合の故障。
 - (11) 日本国外においてご使用の場合。
尚、本製品及びその付属品に使用されているゴム部品等、あらゆる自然損耗する部品並びに消耗部品については、保証の適用から除外させていただきます。
4. 補修用部品：補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 5 年とさせていただきます。
製造打ち切り後 5 年を経過したものにつきましては、供給いたしかねる場合もございますので、何卒ご了承ください。

製品に対するお問い合わせは、下記営業所にお問い合わせ致します。

株式会社ヤマダコーポレーション

本社・営業部	〒143-8504 東京都大田区南馬込 1 丁目 1 番 3 号	TEL (03) 3777-4101 (代)	FAX (03) 3777-3328
札幌営業所	〒062-0002 札幌市豊平区美園二条 6 丁目 3 番 16 号	TEL (011) 821-0630 (代)	FAX (011) 821-0949
仙台営業所	〒981-3137 宮城県仙台市泉区大沢 2 丁目 2 番 3 号	TEL (022) 343-9410 (代)	FAX (022) 343-9411
東京営業所	〒143-8504 東京都大田区南馬込 1 丁目 1 番 3 号	TEL (03) 3777-3171 (代)	FAX (03) 3777-6770
名古屋営業所	〒463-0052 名古屋市守山区小幡宮ノ腰 7 番 38 号	TEL (052) 795-0222 (代)	FAX (052) 795-0444
大阪営業所	〒537-0025 大阪市東成区中道 3 丁目 15 番 2 号	TEL (06) 6971-5301 (代)	FAX (06) 6974-0497
広島営業所	〒731-5128 広島市佐伯区五日市中央 3 丁目 3 番 9 号	TEL (082) 275-5852 (代)	FAX (082) 275-5853
福岡営業所	〒812-0888 福岡市博多区板付 5 丁目 18 番 14 号	TEL (092) 581-5477 (代)	FAX (092) 581-6524

YAMADA AMERICA Inc.	955 E.ALGONQUIN RD., ARLINGTON HEIGHTS, IL 60005,USA	TEL 1-847-631-9200
YAMADA EUROPE B.V	Aquamarijnstraat 50-7554 NS Hengelo(O), The Netherlands	TEL 31-0-74-242-2032
雅玛达(上海)泵业贸易有限公司	上海市浦东新区金桥路 2690 弄 48 号 7 号门	TEL 86-21-3895-36